

風力発電施設が野鳥に与える影響

ー風車建設前と建設後の調査ー

【背景】

- ・ 世界的に風力発電の導入が進展＝風資源豊富、低コスト、新エネでは発電効率良い
- ・ 国内では約 1500 基が建設されている
- ・ 設置基数の増加に伴い、国内でバードストライクの発生が報告されるようになった
- ・ 国内での主なバードストライク事例 (2009 年 3 月末日現在) : オジロワシ 19 例、イヌワシ 1 例、ミサゴ 1 例、トビ 11 例、その他カラス類やカモメ類など
- ・ 海外の研究ではバードストライクの起きやすい種、立地が分かってきた

【問題点】

- ・ 衝突死の発見は、事業者の保守点検か通りがかりの一般人がほとんど＝氷山の一角
- ・ 鳥類への悪影響を評価するための調査は、法律や条例で義務付けられていない
- ・ 建設前の調査、つまり環境アセスメントも法律で義務付けられておらず、事業者による自主調査、または一部の県の条例によるものだけ
- ・ 事前と事後の調査において、国内で標準的な方法が確立されていない
- ・ 新エネルギーによる発電は既存の発電方法より高コスト。RSP 法が導入されていないながら、電気の固定価格買取制度等は導入されておらず、事業採算性は低い。
- ・ 採算性が低いせいもあり、事業者ができる環境調査には質、量ともに限界がある。現行の法的アセスの対象にするとしても、風力発電は事業規模が小さいために調査項目が大きくなりすぎ、無駄な費用の増大と更なる事業への費用的圧迫につながる

【目的】

- ・ **研究者の研究テーマになるかを検討**・・・国内で鳥類へどのような悪影響が起きるかを解明していくには、調査研究の積み重ねが必要。今後は行政や事業者の予算によるものだけでなく、研究者等が研究テーマとして取り組めれば、知見が拡大する。
- ・ **テーマになりそうな話題**

悪影響の種類確定 (衝突、障壁、生息地放棄など) / 悪影響を受けやすい種の確定 / 悪影響を受けやすい立地の確定 / 国内で標準的な調査方法や項目の確立 / コストのかからない調査方法の確立 / 衝突と生理的要因との関係の解明 etc.

- ◆ この会では、海外での調査方法の事例を紹介した後、実際に事後や事前の調査を行った方からの報告を聞きます。そして、それを基に上記の目的部分を議論していきたいです。

【話題提供者】

- ・ 浦 達也（財団法人 日本野鳥の会・自然保護室） 18：10～18：30
「風車建設前と建設後の影響評価方法 ―海外の事例より―」
- ・ 北野雅人（北海道大学環境科学院・現竹中工務店勤務） 18：30～19：00
「苫前の風力発電施設におけるバードストライク発生要因の解明」
- ・ 中津 弘 19：00～19：20
「青山高原 07 三重県の風力発電所での衝突死体探索の調査結果」
- ・ 一戸静夫（日本野鳥の会 道南檜山支部・事務局長） 19：20～19：40
「津軽海峡を渡る野鳥―函館市汐首岬における秋と春の渡り観察記録―」
- ☆ 質疑応答・会場の皆さんとディスカッション 19：40～20：00